

国保ヘルスアップモデル事業
—指定市町村概況票—

1. 概況(平成16年4月1日現在)					
総人口		80,492人	国保被保険者数		32,799人
	(うち40～64歳人口)	26,253人		(うち40～64歳)	9,868人
	(うち65歳以上人口)	16,921人		(うち65歳以上)	14,041人
	(うち75歳以上人口)	7,635人		(うち75歳以上)	6,232人

2. 市町村の健康に関する対応					
関係機関 スタッフ状況	部署名	スタッフ状況(上段:常勤、下段:非常勤)			
		事務職員	保健師	栄養士	その他
	国民健康保険関連部署 (いきいき長寿課)	7人	人	人	6人
		3人	人	人	人
	健康づくり部署 (健康増進課)	10人	15人	3人	4人
		2人	人	人	人
その他 (課)	人	人	人	人	
	人	人	人	人	
現在実施しているヘルスアップモデル事業以外の健康づくりに関する保健事業	<ul style="list-style-type: none"> ○妊産婦保健事業 ○乳幼児健康診査事業 ○歯科保健事業 ○母子保健支援事業 ○老人保健事業(健康教育・健康相談・訪問指導) ○いきいきライフ健康増進事業 (運動・栄養・休養についての正しい知識を学ぶ。また健康状態を医学・体力・栄養の面から科学的に測定し、トレーニングのための運動処方を与え、運動の実践を進める。) ○かのやヘルスアッププラン21推進事業 (健康づくり計画に基づき、健康づくりの意識向上及び健康づくり運動の普及・促進を図り、市民の健康度を引き上げ、健康日本一を目指す。) ○かのや健康スポーツフェスタ 				
市町村内の健康増進のための資源状況	あり <公設> 県民健康プラザ健康増進センター(鹿児島県) 国立鹿屋体育大学 <民設> スウェット・フィットネスクラブ、フィットネスジムMAX、池上スポーツクラブ、鹿屋スイミングクラブ、メルヘンスイミングスクール鹿屋校				
健康増進計画の策定時期	平成15年3月				

3. 市町村の健康状況と課題		
基本健診	1) 受診者数 (平成15年度実績)	対象者数: 24,484人(うち国保被保険者数: 23,864人) 受診者数: 5,742人(うち国保被保険者数: 5,560人)
	2) 基本健診からみた課題	平成15年度基本健診受診者のうち、要指導の割合が30.3%、要医療が54%となっており、異常なしの15.9%を大きく上回っている。 また、疾病別では高脂血症16.8%、高血圧18.6%、予備軍を含めると高脂血症48.1%、高血圧50.6%となっており、生活習慣病及びその予備軍が受診者の約半数を占め、特に年代別では50代以上の罹患者、予備軍の割合が高率となっている。 このことから、50歳代以上の予備軍に対する生活習慣病等の発病予防及び壮年期からの一次予防に重点を置いた健康づくり対策を推進することが必要である。
医療費分析からみた課題	○平成15年5月診療分における疾病分類統計表では、総点数84,077,550点中、循環器系の疾患が21,138,028点を占めており、構成比で25.1%となっている。 ○入院の一日あたり日数でも19.3日を要しており、生活習慣病の対象として高脂血症・高血圧等を対象とすることは被保険者の健康づくり及び医療費の適正化への寄与が大きく見込まれるので、今後の地域展開における保健事業取り組みの歳の重点ポイントとして考慮する必要がある。	
健康増進計画等にかかる実態調査からみた課題	平成13年度に実施した計画策定実態調査時の高齢化率19.2%が平成15年度には20.7%に推移し、急速に人口の高齢化が進んでいる。 また、死因別の死亡率は悪性新生物33%、脳血管疾患16%、心疾患12%と全体の6割を占めている。 これら生活習慣病の発症には、肥満、高血圧、高脂血症、ストレス等が危険因子として関与しており、その減少のためには個人が継続的に食生活、運動、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣を改善し、病気を予防していくなど、積極的に健康を増進していくことが重要な課題となってきている。	
その他	人口の急速な高齢化とともに、生活習慣病及びこれに起因して寝たきり、痴呆等の増加は深刻な社会問題となっている。 寝たきり及び痴呆の主な原因は脳血管疾患、骨折であり、本市における介護保険利用ニーズアンケート調査では、施設入所者の13.7%が骨折を原因としており、また、国保医療費における年代別骨折件数では60歳代以上の割合が75.5%を占めている。このため、骨折の主な要因となる骨粗鬆症予防のための対策を推進することが課題となってきている。	
全体的な健康課題	急速な少子高齢化の進展とともに、疾病全体に占める高血圧、高脂血症等生活習慣病の割合が高く、また死亡原因も悪性新生物、脳血管疾患、心疾患が上位を占めており、生活習慣病等の発病を予防する一次予防に重点を置いた対策を推進することが極めて重要となっている。 そのため、これまで取り組んできた基本健康診査、各種がん検診の受診率向上に努めるとともに、事後指導のより一層の充実を図り、個々人の生活習慣を改善して健康を増進するため健康相談、健康教育等、各種保健サービスの提供を総合的かつ効果的に推進することが重要である。	

国保ヘルスアップモデル事業
—平成 15 年度実績報告調書 A 票—

1. 回答者	
氏名	鹿児島県鹿屋市
所属	保健福祉部 いきいき長寿課、健康増進課
連絡先	TEL(0994-41-2110) FAX(0994-41-2117)
	E-mail(kenko@mail.city.kanoya.kagoshima.jp)

2. モデル事業の実施概要	
対象とする生活習慣病名	高脂血症、骨粗鬆症
対象とする生活習慣	運動、栄養・食生活 ※14年度開始事業分に、一部休養の内容を含む。
個別健康支援プログラムの種類	<p>①高脂血症予防教室 運動介入群</p> <p>②高脂血症予防教室 運動・栄養介入群</p> <p>③骨粗鬆症予防教室 運動介入群</p> <p>④骨粗鬆症予防教室 運動・栄養介入群</p>

3. 事業実施体制			
実施主体	事業実施本部	【構成員】 ①鹿屋市医師会長 ②鹿屋市国保運営協議会代表 ③鹿屋市体育大学元副学長 ④鹿児島県介護国保課国保指導監 ⑤鹿屋保健所長 ⑥県民健康プラザ健康増進センター副所長 ⑦鹿屋市助役	
	実務者会議	①鹿屋市医師会副会長 ②鹿児島県介護国保課担当係長 // 担当保健師 ③鹿屋保健所保健指導課長 // 担当係長 // 担当保健師 2名 ④県民健康プラザ健康増進センター事業課長 // 担当係長 ⑤鹿児島県国保連合会担当保健師 ⑥鹿屋市保健福祉部長 鹿屋市いきいき長寿課長 // 担当係長 鹿屋市健康増進課長 // 課長補佐 // 担当・関係係長 2名 // 担当保健師 3名 ⑦スーパーバイザー ※鹿屋体育大学評価委員 3名	
	プログラムの実施に関わっている委託機関と委託内容	委託機関名	
		鹿屋市医師会	採血時の指導監督
鹿児島県国民健康保険団体連合会		個別健康支援プログラム等実践指導委託	
鹿屋市健康増進センター		医療費データ作成等	
評価主体	鹿屋体育大学評価委員会 元副学長 倉田 博教授 スポーツトレーニング教育研究センター長 西菌 秀嗣教授 生涯スポーツ実践センター長 川西正志教授 生涯スポーツ講座 萩 裕美子助教授		

<p>4. モデル事業実施にあたって実施を開始した保健事業</p>
<p>○モデル事業の実施にあたって開始したものは特にない。</p>

<p>5. 医療費分析の実施状況</p>	
<p>医療費分析の実施の有無 ※実施：○、実施せず：×</p>	<p>○</p>
<p>集計対象予定期間</p>	<p>介入スタート前2ヵ年、介入年、介入後2ヵ年</p>
<p>集計対象</p>	<p>介入群該当者及び対照群該当者の年間医療費</p>
<p>集計内容</p>	<p>入院・入院外別の受診率、1人あたりの日数、1日あたり医療費、1人あたり医療費</p>
<p>集計単位</p>	<p>プログラムごと、市全体</p>
<p>集計実施状況</p>	<p>○平成14年5月医療費については、レセプトデータから介入群、対照群・市全体の医療費諸率を集計。 ○平成15年度については、上記医療費分析方法により、合計6ヵ年程度の医療費データとなるよう集計可能なデータを蓄積。</p>